

NO. 176

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツセンター
072-4183-4643



阿蘇100kmに参加して

徳山 早苗

昨晩から降り続けている雨が、気になり明け方までに、何度も目が覚めました。雨をつたう雨の音が、変わることもなく耳もとから離れずウトウトとまどろんだだけでした。

スタートの合図とともに、少し小降りになった温泉センターを、いろいろ今日まで思いめぐらしていたことを、吹き飛ばすかのように走り出す。

不思議と雨のことも気にならず、足取りは軽くといいのですが、ただこの先100kmと言うことが、頭からはなれず、とにかくゆっくりと自分に言い聞かせながらも、先の人達に引きずられ調子よくスタート。

100km地点より雨もあがり、雨よけにかけていたビニール袋もはずし、順調な走り出しては、頬にふれる風も心地よく、今まさに自分は走っているのだと感動する。

200km地点近くなると、霧が深くなり、自分の前を走っている人の姿が見えずただ自分の足音と、時折木の梢でささる、ホトトギスの声を耳にしながらいり走り続ける。

250km毎にあるエイドステーションには、立ち寄る事が義務の様に立ち止まり水、ジュースを補給し続けたためか、少しづつ胃に痛みを感じる様になる。又雨の為に濡れた靴が、こまごまと不快な音を出し始める。

412. 195km地点になると500mまで走ればもう満足だ、もう止めようと思つて途中で何度も、何度もつよく、下り坂になる。ああ、すくわれた今までの心の重りがすくすくと、とれたこころ気持を入れ換え、腰の痛みを振り払ってゆつくり走り出す。

500. 8km地点待った待った折り返し地点、靴が脱げるユニホームも替えられぬやれやれだ、ゴール近くの人々の応援に答ながらにこやかにゴール。

「今からスタートするから」なにげない岡田さんの声に、安堵感をおぼえる。何が何でも折り返し地点迄は、思っていたい事も忘れ、30分程休憩した後、ゆつくりと走り出す。1番もいかないうちに、左アキレスに痛みが走る、お守りの様にお腹にし、かり巻き付けていたスアレーで早めの手当、予想していたこととはいえず暗闇が立ち込める。靴の紐をくくり直し、走ることを止めようと思つたことなく走り続ける。

出また山、坂を登り下る、もう坂をみるのがいやだ、と思つはど走り続け、わんわんの思いでゴールイン！
万歳！万歳！万歳！
大満足に浸る。



100kmウルトラマラソンに参加して

西 知香

あーあ、100kmマラソンなんか申しこまなければよかった。いつもレースが近づくとつれ、私は後悔してしまふ。バカだなあ、なんて苦しいことをし、遠くまでいくなだらう。こんなことを考えてるのは、私だけだらうか。鉄人の岡田さんは、やっぱり違うんだらうな。

人はなぜ走るのだらう。痩せる為？ 自己記録更新の為？ ビールの為？ はたして私の走る訳は、どれに該当するんだらう。今話題の出版物で、脳内革命という本を最近よんだのだが、人は130才まで生きられるとのこと。

無理(過激)な運動は極力さける。食事にも気をつける。いつもプラス思考で考える。そのことよって、人は寿命が延びるらしい。

しかし私は、あえて走る。走るのが好きなんだ。だからと毎日を通す人生よりも、私は走る人生を選ぶ。寿命が短くても、充実した人生を過ごしたい。

走りながら死ぬたら最高だらう。

しかし100kmマラソンのスタート前まで、走るのなんか今日かきりやめた、二度とレースなんか申しこまないぞと、考えていた。それがどうだ、長い一日をかけてゴールしてみると、走る前の迷いなどこもく風だ。この充実感、この達成感、何度あじわっても素晴らしい。前に読んだ本では、一度走る喜びを知ると一生、人は走ることをやめないそうだ。それで良いのだと思う。

私だって6年前、大腿骨複雑骨折の激痛など微塵も忘れてしまつてウルトラマラソンを走つてんだから。私は物忘れも、はげしいらしい。

この阿蘇の山々も完走した今となっては、また出会える日を待っていてくれる様な優雅で雄大と感じる山なのです。いまだに足は、痛くあまり走れないのですが、阿蘇の皆々様、いい出会いでお友達になれた岐阜県各務原市の浜中好美さん、又この大会に参加することを助めてくださった、会長を始め走ろう会の方々有難う御座いました。かきながら、私の完走を祈ってくれた家族にも感謝する次第です。

平成8年6月9日 阿蘇カルデラスーパーマラソン完走

時間11時間5分

感謝



「ワイキングが敗れる

オフ回 奈良く 飛鳥歴史街道

マランハイイク、エクスパートコース(約42キロに

参加して

遠健三

五月二日、私は家内に「いつでもなッぽ」杖往還
ウルトラマランに行くため、荷物を出したり入
たり、今頃はしまいのに、今年も参加せず残念だ
と、ぶつぶつと電音あり。

細井さんへ「前にも参加したことがある。奈

良に歩きに行きませんか」「切角やけど、三月の岡山
倉敷ツアーに参加して膝を痛め、最近
還も見送った。そんな具合でよっ歩かん。よう参加
せん」と言っていると、行きましようや、行きましようや
という。「駄目だ、今度の若狭三方五湖(若狭)ツ
ーナーマ、チに最初4キロコースを申し込んだが
5キロコースに種目を変更した。そんなことだか
ら駄目だ」

すると、「ゆくり歩きますから行きましようや」と来た。「ほな、行こうか 五月四日 迎杖 奈良駅
午前八時に待合せ。」

さて、当日、参加手續を済ませ午前八時四分
にスタートする。

思えば、細井さんとは、弥次喜多珍道中よろし
く何度も歩いて、新象より和歌山城へ、また
高野山へ、ある時は大崎 粉河を経て、紀伊へ
また、雨の日に神通温泉へ、風呂に入り、うどん
を食べて帰る。それ以外に登山や真夏八月

の40キロウルトラマランに参加する等々。

実際に馬鹿げているものもある。ほんまに弥
次喜多珍道中である。私は決して競走す
る積りはないが、今度細井さんに連れて歩くこ
とはない。それがなんと今回は細井さんは衣
より、先に歩く。河度も回り角では私を待
つ。先に歩いて行てよ、あんたは先行逃切
らぬ型だ。私はゴボウ抜き型だ」とどうもど
先に行てよ」

私は今までの各地のツアーマ、チに何度
も参加して、ま、知キロコースを、それが二日で
80キロを自分のペースタイムがわかっている。知
キロならフルでもそうであるが、5キロ地点
ぐらいて歩いて同じこと、バテてくる。細井さん
もそうだろうと思ひ平気だ。先に行てよ」
「河度も言うが、所詮私達は弥次喜多だ、
連もて歩き快調なペースである。

最初の在、クポイントで昼食となる。「ビール
持て来たから、酒はなにか」「ここから酒屋は
遠い、なんだ、かんだと行って、まあ我慢しよう。
昼食を済ませて、また歩きだす。途中茶店
があり、急ぐこともなからう、ゆくり歩こうや
」「ここが大事なところである。細井さん、私は席ぶ
つ、我々は平気してしんどいか、それかたの「眼
すゝ。それで、コーヒーをのむのではなし、アメリ
クを楽しむためである。コーヒーを注文する。
それがまた、遅い。二度催促するが、「ハイ、イ
今、コーヒーを立てますか」とくる。こうして、い
ろ間にでもとんとんと人に抜かれてゆく。

「今までの私ならは切角ここまで来て、
人に抜かれるとは気が気でなかったであ
らう。しかレ、今は違う。今こうしているが
あの人達に追いつくか、追いつくかだ。ペ
ースを崩してはならぬ。リクスを崩し
てはならぬ。我々は直ぐにも
ペースが戻る。急がな、
そしてゆくりとコーヒーをのむ。果て
か服装を見れば分る。

今度は細井さん、今日の日のために、コ
ースの道端に果物やジュースの店が出てい
る。500メートル酒がある。「ビールのみまは
うや、酒をのんだら良い」止めとけ、止
めとけ、私は先の倉敷ツアーマ、チ
で酒をのみ過ぎて失割している。
「あんなビールぐらいつてことかない」
「ぼんのみましようか、ああ、おしい、
い、気なもんだ。途中今日のお土産
にと、いちご、バナナ、クワイ、
オニオン、クワイ、クワイ、
後、オロとのこと。」

そこで細井さん「ようつて来ますなあ
」お前さんは私に向かてなんちこと
を言うのか、ワシも落ちたものだ、機
関紙発行一巻を以て遂に細井さんに
送完敗する。今度の機関紙の二頁
を飾るであろう。「へへ」と細井さん
が笑う。

「お前さんは私に向かてなんちこと
を言うのか、ワシも落ちたものだ、機
関紙発行一巻を以て遂に細井さんに
送完敗する。今度の機関紙の二頁
を飾るであろう」「へへ」と細井さん
が笑う。

「お前さんは私に向かてなんちこと
を言うのか、ワシも落ちたものだ、機
関紙発行一巻を以て遂に細井さんに
送完敗する。今度の機関紙の二頁
を飾るであろう」「へへ」と細井さん
が笑う。

「おれがう歩いていこうか」どうぞしく

細井さんは走り出す。スクスタと私より先に歩く。まもなく私の視界より見えなくなった。今までの細井さんの走りは、フタームより格段の進歩している。まあいいさ。ここから勝負だ。細井さんが間もなくバチンとあまう。私が追いつく。

だが行けども行けども細井さんが見えない。ゴールまで残りキロ幾馬巨岩。石造物鬼の組より私は走る。ゴールする。「へへ」と細井さん涼しい顔して私を迎えてくれる。「残念だ。今までは競走がしなすが今回は敗けた。細井さんは七時間台でゴールしたそうだな。私は八時間十五分もかかった。

でも細井さん「今度の三才五湖ツリーマーカーはキロでなく50キロでもゆけものに」と私を慰めてくれる。「ほんとだ。トホホ」泣けてくるよ。細井さん「帰り天守閣で眠眠で乾杯しよう。ビール大ジョッキ、ジョウホニラレバー、えび日天ゆっ雑炊、紹興酒で乾杯。

「残念だ、こんなことな。今日来たからたうよ。かた、昔はなあ、秋住還ではなあ」と言うのです。さかすか細井さん「昔のこと言うでも俺が今も現実だよ。現実だよ」と一喝される。

「本当だとう通りだ。機関紙一七六三月で細井さんに透敗れるでも楽しい思い出である。

今度の弥次喜多 どうなるのか 御期待下さい。

注 この原稿一ヶ月遅れました。その種りで

御大読下さい

泥亀の逢

お知らせ

次回定例会は

六月二十四日・七月十四日です。場所は新家種河神社にて午前九時より行ないます。

(おわびと訂正)

平野泰宏さんの住所が誤っていました。おわび致します。

(誤)泉南市

(正)泉南市

